

## 2015年3月期 第2四半期決算 IR 説明会(2014/11/06 開催)

### 質疑応答内容

- Q: ベネズエラの自動車事業は上期▲26億円となっているが、一方、下期にかけて生産回復を見込むということで、通期見通しをどの様に見るべきか。
- A: 今期見通しには、通貨の切り下げによる為替の損失を織り込んでいる。ただ、通貨の切り下げ幅は当初の見立てまでいかない可能性が出てきており、期初に策定した業績計画の範囲でマネージできるとみている。一方、生産・販売台数は期初計画を下回るが、値上げを実施することで、これをカバーし、多少の業績改善も期待できるとみている。
- Q: ベネズエラにおいて、デフォルトリスクの高まりや原油価格下落による経済状況悪化などがみられ、リスクはむしろ高まっているように見える。その中で、同国の自動車事業の業績改善とは短期的なものなのか。中長期的ではどのようにみているのか。
- A: ベネズエラの国内情勢は把握しており、一定の引当金を計上し、通貨切り下げにより影響を受ける外貨建て債務を増やすつもりもなく、損失は底を打つことになる。
- Q: ベネズエラの外貨割り当てについて、下期の生産に充てる外貨資金を確保したということだが、今後はどのように見ればよいか。
- A: ベネズエラ政府も自動車業界については配慮している印象はあり、定期的な外貨割り当ても徐々に行われるようになり、改善はしてきている。ただし、今後も状況を常に注視していく必要はあり、現地からの報告を日々受けて、管理している。
- Q: 双日はアセットを積み増していくステージにあると思うが、一方、他社で多額の減損計上があった中で、どのように投資をして利益を伸ばしていくか、また、リスクを抑える方策等について教えてほしい。
- A: 投融資の集中領域を決めるにあたり、3つの定義をもうけている。1) 成長分野であること、2) 当社が得意とする分野で優良パートナーがいるかどうか、3) 当社が過去から機能として強みを持っているか。この3つの要素を踏まえて集中領域を定めてきている。更にリスク管理指標として投融資基準をクリアすることを前提としており、これらが一定の減損に対するバックアップになるのではないかと考えている。
- Q: 来年度以降の投融資計画について現時点の考え方を教えてほしい。現行中期経営計画同様、資産圧縮を行いながら投融資を行っていくのか
- A: 詳細については次期中期経営計画発表時にご説明させて頂く。資産入替を行いながら投融資を実行していく、という現行中期経営計画の方針は、結果的にDERの改善につながり、多少の投資余力が出てきた。今後も資産入替は行っていくが、投資を先行する余力があれば、そ

れは使っていきたいと考えている。

Q: ベネズエラ以外の新興国での自動車事業の状況について教えてほしい。

A: ロシアは、原油価格の下落と通貨下落で難しい状況。タイは一時政情不安の心配があったが現在は落ち着いてきている。フィリピンは非常に堅調に推移している。国によってばらつきがあり、それぞれに合わせた対応を行っていく。

Q: ロシアの自動車事業について教えてほしい。足元のルーブル安によって、為替評価損等の損失が出てくる可能性はあるか。

A: リーマンショック時にルーブルが大幅に切り下がった時の反省として、基本全てフルヘッジを行うことで対応している。従い、為替評価損で、多額の損失を計上するようなことはない。

Q: 次期中計では何を優先させていくのか、何が出来れば配当を含めた株主還元の強化につながるのか教えてほしい。

A: 次期中期経営計画における株主還元について、どのような形で打ち出していくかは次期中計の発表時にご説明したい。

Q: 生活産業の海外肥料事業や海外工業団地事業が上期好調だったが、下期をどのようにみているか。

A: 海外肥料事業は上期好調に推移したこともあり、通期見通しを上回ってくるだろうとみている。一方、海外工業団地事業は、上期は順調に推移したものの、下期は少しスピードが鈍ると予想しており、通期では期初見通し通りと現段階では予想している。

Q: ROA 2%の達成はいつ頃がターゲットになるのか、そのイメージを教えてほしい。

A: できるだけ早期に ROA 2%を実現していきたいと考えている。

以上